

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 のどか宅老所	代表者	矢山修一	法人・ 事業所 の特徴	事業所の理念である「家庭生活の延長線上にある介護」を大切に、一人一人の生活リズムに合わせたケアを心掛けている。合わせて家族の介護負担軽減が図れるよう、その日の要望に合わせたサービスが柔軟に提供できるよう対応している。
事業所名	小規模ホームのどか	管理者	神谷久美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	人	人	6人	人	人	人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	課題を明確にし、具体化する事によって、一つでも多く達成出来る様に取り組む。	出来ている項目も多いが、自信が持てず、ケアの改善に繋がっていない職員もあり、統一した支援が出来ていないのが課題である。	職員全員で自己評価に取り組んでいる事が確認できた。	職員全員で情報を共有し、協力し合う事で統一した支援が提供出来るように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設への出入りが制限されている中、安心してご家族を送り出せる様に利用者の方・家族の方への挨拶や気持ちの良い対応を心掛ける。	安心して送り出して頂ける様に送迎時には声かけや気持ちの良い対応に心掛け、職員全員で取り組む事が出来た。	職員の雰囲気が良いのが伝わり、安心感が大きい。	コロナ禍で制限されている状態ではあるが、施設内で季節を感じられる取り組みを計画し、居心地の良い空間作りや行事に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	実施可能な地域との交流を検討し、繋がりが途切れないよう取り組む。	院庄こども園との交流は、繋がりが途切れないように贈り物等、交流に工夫を凝らして、利用者と一緒に楽しむ事が出来た。	コロナ禍での活動や取り組みは大変だと思いますが、「のどか通信」で楽しみに拝見させていただいています。	コロナ禍で、まだまだ活動に制限はあるが、地域や院庄こども園や院庄駅への活動が途切れない様に継続していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	各家庭の地域には踏み込めていない。実施される地域の行事の情報を収集し交流を図る。	地域行事の情報収集は難しく、あまり活動へは繋がらなかった。だが、趣味を活かして市へ俳句投稿し賞を取るなどの取り組み支援は出来た。	感染防止の為、活動が難しい中、色々取り組みを考えて下さりありがとうございます。	年間通しての計画を立て、地域の文化祭等に作品を出品する。利用者と共に地域に出向いて行く活動を支援し取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	推進会議等で、ご家族の地域の方に支援が必要な方がいれば、情報を集め窓口となり、支援に繋がれるよう取り組む。	困っていたら「のどか」を勧められたと見学の依頼があり、地域の方との窓口となる取り組みが出来たと思う。	情報交換出来る場あり、困っている方の支援に繋がっている場になれば良いと思う。	在宅で抱えている悩み等を気楽に相談出来る様に家族の方とコミュニケーションを取り情報収集に努め支援に繋がっていく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>引き継ぎ「地震」「火災」「水害」 に対する避難訓練を実施し、安全確保に繋げる。実施の度に改善点を振り返り、地域の方を受け入れる体制を整える。</p>	<p>避難訓練を実施しているが、実際に災害があった時に、職員一人一人が危機管理感を持ち避難し誘導出来るかは課題が残る。その為には、繰り返し知識を身につける必要がある。</p>	<p>災害時などには地域の方の受け入れをお願いしたい。</p>	<p>繰り返し学ぶ事が大事である。その都度、反復して知識や対応を身につけていく。職員一人一人が身につける事で、緊急時には安心して避難出来る場所として確立していく。</p>
----------------------------	---	---	---------------------------------	---